

30歳以上の剣道愛好家必見！

大人の 剣道具

～7つのルール～

百秀武道具店の
ウガ店長

剣道具こそ最強の自己投資

もう、間違えない！あなた史上最高の立ち姿を引き出す剣道具とは？大人には大人に相応しい剣道具の選び方があります。「軽い」「動きやすい」だけで選ぶと後悔しますよ。

はじめに

こんにちは。百秀武道具店の宇賀（ウガ）といいます。四国の片田舎で大人向けの手刺し防具専門のお店をしたり、剣道Youtuberをしたりしています。

コロナになって剣道を取り巻く環境が驚くほど変わりましたね。飛沫飛散対策、面マスク、面シールド、暫定ルール。。。普段の稽古や試合だつて無くなったりしたこともありました。

と同時に実は、剣道具を作る環境もこの数年で激変しています。円安、材料不足、職人不足、値上げ、納期遅延、需要減、過剰在庫。。。特に手刺し防具はもうコロナ前と同じような感覚で作ることは手に入らなくなってきたと思います。それでもまだ製作出来ているだけマシな方。あと十年もすれば手刺し防具は作れなくなるのではと危惧しています。

世の中不思議なもので手に入らなくなると欲しい人が増えます。当店でも特にこのコロナ禍で稽古が思うように出来なかったことから逆に、より高品質の手刺し防具を求める方が増えた気がします。（しかも高段者の先生じゃなく、普通の一般の愛好家やブランク再開、女性の方々が）

この冊子は「当店の剣道具は最高です！だから今すぐ買ってください！」という本ではありません。もちろん当店がお役に立てればこの上ないですが、そんな小さい事よりもあなたと同じ、イチ剣道愛好家目線、使い手目線で大人の剣道具選びで本当にあつた失敗例、選び方の判断基準を伝えたいと思います。

「大人こそ良い剣道具を身につけると剣道人生まで変わる！」

使い手にとってどんな剣道具が一番やる気が出て、今すぐ稽古に行きたくなって、昇段審査や試合で自分を最大限に引き立ててくれるのか。これから実例をふまえ「7つのルール」で分かりやすくお話しします。想像しながら聞いてくれると嬉しいですよ。

目次

ルール 1

できる大人は大人が身につけるのに相応しい剣道具を選ぶ

ルール 2

できる大人は「ありがとう」といいながら剣道具を買う

ルール 3

できる大人は自分で納得して選ぶ

ルール 4

できる大人は修理に出すのが早い

ルール 5

できる大人ほど1台の防具を大切に使う

ルール 6

できる大人は剣道具の力で自分を奮い立たせる

ルール 7

できる大人は価格よりも価値を見る

番外編

できる大人は剣道着袴にも気を配る

△付録▽大人の剣道具の選び方と判断基準

ルール1

できる大人は大人が身につけるのに相応しい剣道具を選ぶ

暖かくなったある春の日、九州から朝早く自動車に乗ってフェリーを乗り継いで来店されたお客様の話です。その方は年齢は50代半ば、お仕事は医師で病院にお勤めです。お店に入るなり当店の百年防具の展示見本を「やつぱりそうだな、これが剣道具だな。」と言いながら手に藍が付くのも構わず、うんうん言いながらずっと眺めて触っています。

「宇賀さん、聞いてください。先日、長年のブランクから剣道を再開しました。剣道具は高校時代に親に買ってもらったのですが、ずいぶん前に身内に譲りました。剣道具がないので再開にあたって地元の剣道具屋行っておすすめの剣道具を購入してちよつと驚いた事があつたんです。」

そう言ってまた駐車場に戻って車のトランクから降ろした防具袋を開けて見せてくれました。すると中からまだ布団の型も付いていないピカピカの剣道具が出てきました。

「宇賀さん、どうぞ見てください。今の剣道具ってこうなんですか？私がイメージしていた剣道具と何か全然違うんですけど。」

実はその剣道具、「ジャージ生地」で作られた剣道具だったのです。

「お店の人は洗えますよ、って言うんですけど剣道具なんてそう洗うものでもないし、価格も決して安くはなかったんですよ。お店の人に言われるがまま実物も見ずに買ったのですが、実は私この防具を見たときお店でがっかりしまして、、もう恥ずかしくて使えないんです！」と言いました（実話です）。

その剣道具の為にも声を大にして言いますが、それはそれで良い剣道具です。最新の流行の型だし、面布団も短いし、その上洗えるし、軽い樹脂胴は付いてるし、サイズも合ってるし、欲しい人もいっぱい

いいと思うし、確かに今流行ってます。お店の人は善意ですすめてくれたけど、ただ自分が思い描いてた剣道具とあまりに違いすぎたというのです。

もう少し話を詳しく聞いてみると、この方の想像していた剣道具は昔、両親に買ってもらった通りの、藍の色が手について、使っていく内にきれいに色落ちしていつて、鹿革のいぶした香りがする職人が作った剣道具だったのです。自分が剣道から離れていた間に、まさかジャージ生地之剑道具が出てくるなんて思ってもなかったから驚いたということです。少しくらい高くても、50歳をすぎた大人が本気の趣味に身につけるのに相応しい剣道具が欲しかった。この先長く愛せる剣道具が欲しかった。

ホント、誰も悪くない。お店の人も良かれと思つて一生懸命選んでくれたはず。その事を分かっているからこそそのお店には何も言わず、車を飛ばして来店し、自分のイメージした通りの百年防具を当店で作られました。帰り際に「この防具はこれはこれで大切に使います。でもそれとは別に、本当に自分がイメージしていた防具が見つかってよかったです。」と満足そうにされてたのをよく覚えています。遠方から来た甲斐があったと言ってもらえました。

ルール2

できる大人は「ありがとう」と言いながら剣道具を選ぶ

ある日こんなお客様が来店されました。年は40〜50歳代、中部地方から車で香川までいらつしやいました。坊主頭でがっちり体型、一見強面ですが、やさしそうな笑顔、やさしい喋り方、威張った感じはまるで無し。黒縁のメガネをかけて靴もピカピカです。

「宇賀さん、時間がかかってもいいです。本気で剣道を再開したいので長年使えるよう職人さんにしっかり良い防具を作って欲しいのです。」

まずその方が不思議な方だなと思ったのが、これも一種の審美眼とでもいうのでしょうか、飾りやデザインには一切目をくれず、材料や布団など価格も見ずにどんどん良い方を選んでいくのです。私は「こつちとこつちがありますよ。」と複数提案するのですが、「こつちの方がよさそうですね、触れば

わかります。」と言いながらどんどん良い方をど瞬時に見抜く。その決断のスピードがただ事ではないくらい早い。日頃から自分で意思決定されている様子が伺えました。

そしてここからが本題なのですがその方、なぜか打ち合わせ中ずっと「ありがとうございます、ありがとうございます。」と言いながら仕様を選ばれるのです。たぶん二十回以上は口にされたと思います。

剣道具は1台作るのにたくさんの職人さんの手が必要です。革を染める職人、紺生地を作る職人、面金の職人、布団を刺す職人、胴台を組み立てる職人、漆の職人、面金の職人、面組みの職人。なので仕様ひとつを選ぶごとに「ありがとうございます。」と口癖のように言ってくれるので職人さん達が報われた気がしました。

そうなる私もやはり人間ですからこの方には最高の剣道具に仕上げようと思うもの（乗せられた？）。

そして「ありがとうございます」はさらに続きます。剣道具の代金をお支払いされるときさえ「ありがとうございます。」と言いながらお金を手渡してくれるのです。本来こちら（お店側）があります。お互い「ありがとうございます。」と言いつて非常に心地よい雰囲気になりました。こんな方なら職人だって一生懸命作ります。後から聞いたらその方、お寺のご住職とのこと、リアル引き寄せの法則、いただきました。

ルール3

できる大人は自分で納得して選ぶ

大人の剣道具選びは人任せにすると失敗します。ある50代のある女性のお話です。ご主人とフランスからご帰国のついでに飛行機で香川県のお店まで来店されました。奥様はヨーロッパで稽古ができてとても楽しいと言っていました。がひとつ悩みがありました。

渡仏前に剣道を始めるとき、奥様の地元の武道具店で剣道具を揃えてもらいました。お店のご主人に「そしたら私に全てまかせとけ!」といってお店を後にしました。2ヶ月後防具を取りに行つたときに目を疑いました。まさかの昔流行つた、赤胴十白防具だったので（最近ではほぼ見かけません）。

「私はただ、周りの人と同じ普通の剣道具が欲しかっただけなのに。。。」

白防具が悪いという意味ではありません。これまたお店の人がよかれと思ってやったサプライズ。ここにもまた善意しかありません。それは充分に分かっています。50歳を過ぎて稽古のたびに目立つのがとても恥ずかしく感じられそうです。

しかも面のサイズも全然合っておらず、ブカブカなのを我慢して使っていました。様子を見かねたご主人がせっかく購入した剣道具だが何とかしてあげたいと来店され、二人揃って見た目はシンプルで質の高い手刺し防具を揃えてさせていただきました。いくら懇意にしているお店でも使うのは自分です。大人こそお店の店主の趣味ではなく、自分の剣道具は自分で納得して選ぶことが大切です。



おまかせします！

でこれ来たらびっくりするよね

ルール4

できる大人は修理に出すのが早い

お店から50キロくらい離れたところに住む八段の先生の話です。もつとお近くに武道具店があるので、小さな穴が開いたらすぐに当店に剣道具を持ち込まれます。修理でお預かりする防具を見れば、先生が道具を大切に扱われているのがよく分かります。この間は垂を預かりましたが、垂紐はよれてなく、稽古の後に毎回毎回手でシワを伸ばしてるのが分かります。汗の塩も拭き取っておりますし、きれいな色落ちを見れば直射日光には一切当てず、日陰の風通しの良いところで大切に保管されているのも分かります（私は自分の垂のシワシワの垂紐を見て恥ずかしくなりました）。

「今日は大垂のへりの5ミリくらいの穴に革を当てますね。」できる大人は「まだ使える」と思っても、稽古の度に同じ箇所が擦れるので小さな修理を後回しにしない方が剣道具が長持ちすると知っているのです。

ところで手刺し防具が十年、二十年と長く使える理由をご存知ですか？それは「修理」ができるからです。スマホや家電だと技術革新が早すぎて型が古くなると部品が無くなつて修理が出来なくなるのです。剣道具は百年前と変わらない材料が今でも入手でき、百年前と同様に修理する職人が今でもいるからこそ修理しながら長く使えるのです。それってめちゃくちゃ素敵じゃないですか！

また話は変わりますが、武道具店に甲手の修理を持ち込んだら「これなら書き直したほうが安いよ」つと言われて何とも言えない違和感を感じた経験がある人もいると思います。「いや、長年使った愛着のある甲手、そう簡単には諦められないよ。」それには理由があつて修理は革や布などの材料費の他に「職人さんの工賃」つまり「人件費」の占める割合が高く手間もかかるのです。修理は急ぐ場合が多いので通常お店や国内の職人さんが対応します。そこで人件費の高い日本の職人さんに修理をお願いするより、海外の安価な職人さんに新しく作ってもらった方が安くなる場合がある。これが「修理より新しいの買った方が安いよ」のカラクリです。そしてこの変な仕組みが傷んだらすぐに買い直す剣道具の使い捨てサイクルを助長させているのです。

手刺し防具クラスになると十年、二十年の使用が前提です。小さな修理をしながら大切に、大切に使い込んでいくと何とも言えない味が出てきます。修理に値する剣道具を選ぶことも大人の剣道具選びです。

ルール5

できる大人ほど1台の剣道具を大切にする

この方は地元の中小企業の社長をされています。40歳を過ぎて大人になってから剣道を始めました。今は七段の先生です。大人になってから剣道を始めた人は動きがかたい。自分でも分かってます。だからこの方はまわりの人より一生懸命稽古を頑張りました。所属している道場の他に稽古へ行っているのも私は知っています。稽古の内容を70歳を過ぎた今でもスマホ（昔はビデオカメラでした）で撮影して稽古の後もう一度寝る前に見直しているのも知っています。

その方は剣道を習い始めた40代に買った1台の手刺し防具を日頃の稽古や、出稽古いくのにも毎回、毎回、持ち運んでました。その先生はいつも同じ剣道具ですが、安物の道具を身に着けているとこ

ろは一度も見たことはありません。そして十年ほど前に当店で買い直された百年防具を今では毎回装着素晴らしくお使いいただいています。

私が言いたいことは、我々大人は道場で先生、稽古仲間、子どもたちや父兄、周りの先生から見られています。子供の指導者になればなおさらです。では自分のどこが見られていると思いますか？答えは「後ろ姿」です。自分では見えない後ろ姿こそ、稽古中や元立ちの先生に並んでいる時や、審査の時など、周りから見られているのです。面の後頭部が大きくはみ出していたり、面が曲がつてついていたりは自分では見えませんがそれもしっかり見られています。大人になると失礼だから気を使つて言われてないだけ。

人の印象は「表が1」、「後ろが9」と言われているそうです。岩立三郎範士も著書「剣道は乗つて勝つ」の中で「胸と襟に気をつけながら、後ろ姿を美しく」と書かれています。

話を元に戻すとできる大人は1台の剣道具を大切に使うということでした。安価なセール品の剣道具を3台買うくらいなら、本気で作った剣道具を1台を選ぶ。これが大人の正解です。剣道具を何台持っているかは関係ありません。剣道着袴含めて「身につけている剣道具1台がどんなものか」が見られています。身につけてる剣道具でいたいどんな人か分かってしまうものです。警察、自衛隊、会社員、上の階級の人ほどちゃんとした服装を身につけてるのと同じです。

ルール6

できる大人は剣道具の力で自分を奮い立たせる

中部地方に住むお客様の実話です。年齢は60代後半。六段審査に50回落ち続けていました。50回は大ききだろうと思いつながら話を聞いていると本当でした。「自分でも不器用な剣道で、同年代の仲間どころか、教子達にさえ昇段を抜かされて恥ずかしい」と電話口で言っていました。「マンネリ化した気分を変えようと思つて胴を新調したい。」とのこと。審査用にフォーマルな黒胴をご提案しました。胴の製作には時間がかかります。その間新しい胴を楽しみに稽古をしましたが、それでも審査には落ちてしまいました。

ところが新しい胴が仕上がつて一発目、「素晴らしい胴ですね！この胴に負けないように稽古をします。」とやる気を出して迎えた最初の昇段審査で、まさかの六段に合格されたのです。繰り返しますが

実話です。もちろんその方の実力と思いますが電話口から嬉しさが伝わってきます。私も感激して思わず椅子から立ち上がったのを今でも覚えています。その時初めて剣道具には不思議な力があるなと思いました。その方、感激されて自分の生い立ち、仕事や剣道の苦労話を冊子にまとめて送ってくださいました。さらにここから七段への挑戦の意欲も書き記されました。

長い間待つて仕立てた剣道具が仕上がった時には本当に感動します。手につく藍、鼻に飛び込んでくる鹿革の匂い。自分の顔が映るくらい磨き上げられた胴。誰もが「この立派な剣道具に負けないよう稽古しよう」と感じます。今では、大人こそ「最初に見直すのは身につける剣道具」ではないだろうかと思っています。

次のステージに進みたかったら、次のステージに相応しい剣道具を身につける。そう、稽古のマンネリ化は今いるステージからの卒業サインなのです。

ルール7

できる大人は価格よりも価値をみる

じつは失敗する典型的な剣道具の買い方があります。ある武道具店での様子です。

店主「はうい、いらつしやいませう。」

お客「剣道具探してるんですけど。」

店主「剣道具ですか？ご予算は？」

お客「いや30万円くらいで買えるのがあれば。。。」

店主「それなら良いのが買えますよ。このメーカーはいかがですか？ん、見本？無いっす。」

お客「そうですか、実は〇〇先生の紹介で来たんです。」

店主「あら、〇〇先生の紹介ならいつもお世話になってるので特別に値引きしますよ。定価の6割引。定価80万の剣道具を32万でいいですよ。でも他の人には言わないでくださいね。」

これがまさに昔ながらの失敗する剣道具の選び方です。予め大幅な値引きを前提とした割高な定価を付けておいて割引率の大きさに満足度を与えます。実際、80万円の防具が32万円なんてありえない話なのになぜか自分だけラッキーと思ってしまう。不思議ですよね。でもその時は安く買えた！と思っても、後から誰もが「じゃあ本当の価格はいくらなんだ？」「もつと値引きできたんじゃないだろうか？」「他の客には25万で売ってるんじゃないだろうか？」と買ったあとで後悔が押し寄せてきます。

この剣道具の選び方の問題は剣道具の価格しか見ていないことにあります。「4割引だった。」「あそこは5割引」価格だけで選ぶ剣道具の満足度は「一瞬」で終わってしまいます。それに対して価値に重きをおいた剣道具の選んだ人の満足度は「一生」続きます。

当然ですが良い剣道具を作るのにはコストがかかります。そのお店が一体剣道具のどこに価値を置いているのか（コストをかけている部分）。実践型なのか、手刺し防具なのか、学生用なのか、派手派手

イケイケの飾りなのか。お店は自分が一番価値を感じているところにコストをかけます。私は普段の稽古で打たれても痛くない打突部位はしっかり作った剣道具、かつある程度ねっとり柔らかい布団の剣道具が大人には相應しいと思っています。まずは衝撃吸収性、その上で経年変化や手触り、鹿革の香りを楽しめて、派手すぎず、威張らず、上品で、清潔感があつて、立ち姿が大人っぽい剣道具ならなおさら大人向けの価値があるはずです（学生っぽく見えないことが結構ポイント）。

さらにここだという価値というのは剣道具の品質だけのものではありません、サイズ合わせも価値に含まれます。いやむしろ、サイズ合わせこそが剣道具の使い勝手を一番左右します。サイズがぴったり合っていればそれだけで軽く感じて使いやすいものです。本当にぴったりな面は面紐が外れてても前にずり落ちて来ません。加えて物見がぴったりあつていれば視界も広くて前が見やすい。そこには手刺し防具もミシン刺防具も関係ないです。どんな剣道具であれ面サイズと物見までしっかり併せて選ぶことで大人に相應しい立ち姿が引き出せるのです。

番外編

できる大人は剣道着袴にも気を配る

剣道着袴のお話です。2018年に韓国の仁川で世界大会がありました。私は運良く見に行くことができ、その翌日にソウル市内の道場で稽古をさせていただきました。稽古が終わり更衣室で事件が起こったのです。実は私は「武州一」という剣道着袴を愛用していますが、初韓国ということもあり私は武州一の一番上等な「万里」という一張羅（紫のタグが付いていて、上下セットで5万くらいします）をはいていきました。日本でも紫タグはそうそう見かける機会はありません。審査用とか贈答用クラスです。狭い更衣室で現地の若い子達と一緒に着替えます。

そしてふとある若い子の袴を見たら、なんと自分と同じ武州一をはいてるではないですか。しかも紫タグ！間違いありません。「えっ、めっちゃくちゃいい袴はいてるやん！同じだね。」と周りを見たら、

周りの方も4、5人、紫タグの武州一を履いていました。一瞬、頭がバグりました。「あれ？ここは日本??」「ソウルは高所得者が多いから？」そこで遂に事実を認めました。日本でジャージ剣道着やジャージ袴が大流行しているころ、お隣韓国では日本の最高の剣道着袴が人気だったのです。

その日以来、私はジャージ剣道着袴を着くなりました。そして武州一の社長さんに韓国でこんなことがあったんですよと伝えたんです。そうしたらさらに興味深いことを教えてくれました。韓国に加え、アメリカでも武州一の剣道具袴が大人気で日本の最上級の品を求められるとのことでした。そして韓国のあるお店は武州一製品をお客様にお渡しする前に、自分で水通しをして下準備をした状態で納品する素晴らしいお店があると聞かされました。我々日本人こそ、良い剣道着に袖を通し続けたいと思いました（番外編終わり）。

巻末付録

大人の剣道具の選び方、判断基準

△面▽

・大人には少し無理してでも剣道家なら誰もが憧れる手刺し防具をおすすめします。やはり手刺し防具が最高です。大人は学生みたいに毎日稽古する訳ではありません。良い道具は稽古の度に満足度がまるで違い、稽古に行きたくなります。

・面金・・・チタン製（ジュラルミン製は安価で軽量ですが色が白っぽく、アルミの合金なので折れることがあります。10年、20年の長年の使用が前提の手刺し防具はチタン製面金が良いです。昔の洋銀の面金に比べるとチタンも断然軽いです。

・面布団・・・お店の考え方が非常に出る部分です。柔らかい実践型、昔ながらの硬い布団。私が一番いいと思うのは普段の稽古メインで使えるよう打突部位を分厚く、その他は柔らかくて動きやすい剣道具です。子どもたちの元達ちになることも多いはずです。

・面布団の長さ・・・大人が身につけるなら21cm〜23cmくらいでしょう。最近流行の既製品のミシン刺剣道具は18cm〜16cmという長さが多いですが学生向けです。学生さんは極端に短い面布団が好きですが、大人が身につけると立ち姿が学生になり、風格がでません。昔は25〜26cmでした。

・物見合わせ・・・面サイズが合って、物見の位置が合っていないと、面がまっすぐ着かずに姿勢が悪くなります。高段者の審査を受ける方は必ず確認が必要になってきます。（★最重要★）面のクレームで一番多いのが面サイズと物見合わせです。たとえ100万円の剣道具でも使い物になりません。お店に言っても「そんなもんですよ、もう少し使ってみてください」と言われ泣き寝入りになる人も多いです。

△胴▽

・胴胸・・・昔は曙光（しょっこう）といって金茶やエンジ、うぐいす、紫などの色を入れていましたが、今はシンプルな方が使いやすいはずです。大人に必要なのは豪華絢爛な飾りではなく、清潔感です。無駄な飾りは削ぎ落としてその分品質にお金をかけた方が満足度は高いです。

・胴台・・・大人はやはり竹胴が似合うと思います。今は樹脂胴（プラスチック）やファイバー胴（紙の圧縮）が販売されている9割以上だと思います（学生メインなので）。ただ、胴台は職人の仕事を一番感じられる部分です。竹を組んで形を作って、温度と湿度を調整しながら漆を塗って仕上げます。ポンと型で成形した樹脂胴とは愛着が違います。ちなみに打たれた感触も竹胴は痛くないです。樹脂胴は竹胴と比べると薄い感じがします。気になるのは竹胴の重量ですが、職人にもよりますが昔ほど重たくはありません。

△甲手▽

・動きやすい、くねくね曲がるだけで選ぶと失敗します。動きやすくするには甲手の中の鹿毛（綿）の量を減らせば簡単ですが、怪我に繋がります。一昔前、衝撃吸収製の低い実践型の甲手が大流行しました。これも試合メインの学生向けですが、あまりに怪我が多かったと聞いています。甲手布団が極端に短いものも大人が身につけるには変です。大人には怪我がなかなか治りませんので衝撃吸収製の高い甲手をおすすめします。良い甲手の中には鹿毛が詰まっています。鹿毛は中が空洞になっていて、この鹿毛が稽古で打たれて折れてパフツと使いやすくなります。

・あと意外とお店（職人）によって甲手の形というのが違い握りに影響します。どちらのお店であれ実際に手を入れてみるのがベストだと思います。

・特に手の長さだけ長いとか（厚みは普通）、逆に手の平の厚みだけ厚い（長さは普通）場合には既製品では合わないことが多いです。きっちりオーダーする必要があります。

・色落ち・・・藍染の反物と鹿革で作られた甲手は直射日光に当てて乾かさないでください。藍のきれいな色が飛んでしまいます。日陰の風通しの良いところで乾かしてもらおうと使用経過できれいな水色に色落ちして存在感が増していきます。

・手の内・・・天然の茶鹿革をおすすめします。鹿革は一番キメが細かく手を入れて柔らかく気持ちが良いです。セーム革なども聞いたことがあるかもしれませんが、人工素材ではありえないキメ細かさから高級な楽器や家具、貴金属の手入れに使われます。学生さんなら求めるならクラリーノ、さらに最近出始めたウルトラスウェードが非常に良いと思います。鹿革は穴が空きますので修理をしながら大切に使える大人におすすめです。

△垂▽

・垂・・・手刺し防具をおすすめします。天然の鹿革を使った垂がありますが最高です。単品購入される方は面と垂を揃えて買うと全体で統一感が出ると言われています。甲手と胴はバラバラ単品購入でもそれほど目立ちません。垂は柔らかすぎず、硬すぎず、気持ちよく巻けるのが良いです。大人になると腹が出ることもありますので垂紐の長さや垂のサイズそのものもしっかり合わせた方が良いです。注意

したいのは身長が160cm代でお腹が大きく出ているケース。ウエストサイズだけを見てお店の人に進められるがまま特大寸を選ぶと大垂が大きすぎて悪目立ちします。普通寸の垂を横幅だけ特大寸になるようなオーダーをしてやると立ち姿も自然です。

△剣道着・袴▽

・日本製の剣道着袴は藍の色の深さが違います。品質は最高ですが作り手が減ってます。価格も高価になりますが海外製とは物が違います。

- ・剣道着は綿製の二重（夏場は一重（裏地が無いもの）藍染の剣道着は臭くなりません。
- ・袴は綿袴（綿袴は折り目が取れないように畳む必要あり）良い袴は畳むのが楽です。
- ・ジャージ剣道着やテトロン袴は毎回洗濯しないと臭くなります。

△お店▽

- ・近所のお店？ネット通販？アフターフォロー？
- ・専門店？なんでも屋？

・先生に紹介してもらおうと断れなくなります。今の時代、ネットで何でも調べられます。まずは何件も調べて、カタログを取り寄せて自分が納得できてから買いたいですね。

・これは剣道具だけの話ではありませんが、個人的には物を買うときに広告をたくさん入れてる企業の商品を私はあまり買いません。その広告料が商品代金に上乗せされているのは当然ですし、広告無しでは売れない商品なのかと逆に疑ってしまうのです。立派すぎるショールームや人件費が高い営業マンも同様です。そんなことよりも口コミや知人の紹介、ホームページなどを通じてお店の考え方に共感できるかを大切にしたいです。

・お店の店主が剣道の先生だったりすることは良くありますが「お前にこの防具はまだ早い」とか「ウチから買わないと剣道を教えない」といった販売方法をする人は私は嫌いです。

・売れてるお店、専門店から買ってください。良い材料、職人が集まっています。年間に1台売れるお店と、月に10台売れる専門店、それは仕上がりが違います。